

かたつむい通信



令和7年度 第1号2025年4月発行



八重桜 撮影：井澤 清明さん

地域の環境保全活動を応援します

募集中

地域における環境保全活動に対する助成制度

地域の環境保全活動を自主的に行う団体に活動資金の一部を助成する制度です。区内在住・在勤・在学のグループでの環境保全をテーマにした活動にご活用ください。

【活動内容の例】

- ・環境保全をテーマとした講演会・学習会の開催
- ・自然観察会等の企画・運営
- ・3Rの普及を町会、住区などで行う活動 など

助成限度額 1団体5万円または10万円

申請期間 令和7年4月1日(火)～30日(水)



詳細はこちらから

申込・問合せ：エコライフめぐろ推進協会 ☎03-3715-7835

子どもの笑顔と未来をつくるエコライフ ①

子どもをアレルギーにしない暮らし方

鈴木賀世子 (babycom代表)

花粉シーズンが到来し、くしゃみや鼻水などアレルギー症状に苦勞している人も多いのではないのでしょうか。ここ数年温暖化の影響で花粉の飛散時期が長くなり、また飛散量も増加、これまでに以上にアレルギーを発症しやすい環境になっています。

実はアレルギーは乳幼児のころに最も気をつける必要があります。わたしたちの身体には外敵から身を守る免疫という仕組みが備わっています。その免疫が環境やライフスタイルなどの影響によってバランスを崩し、過剰に反応するのがアレルギーです。まだ身体が未熟な乳幼児期は大人に比べて極端に外敵に侵入されやすくアレルギーを発症しやすいのです。

アレルギーを引き起こす原因となる物質のことをアレルゲンといいます。乳幼児のアレルギーの多くは家の中のホコリが原因といわれています。このホコリの中に花粉やダニ、カビなどが混ざりあって「ハウスダスト」というアレルゲンになります。これがエアコンの空調や人の動きによって空気中に舞い上がり、気管や皮膚などから体内に侵入します。

では、どうしたらハウスダストは除去できるのでしょうか。その効果的な方法の一つが掃除です。ていねいな掃除がアレルギーの予防や軽減につながります。掃除のコツさえ押さえれば効果的にハウスダストを減らすことができますので、いつもの掃除に取り入れてみてください。

まず掃除をはじめる前に、ダニが生息しやすい場所、ホコリが溜まりやすい場所を把握しておきましょう。寝具やカーペット、布ばりのソファ、ぬいぐるみなど家族が多く触れる場所、ホコリが溜ま

るカーテン、窓枠、本棚など。掃除はこのような場所から始めます。そうすると取りきれなかったダニやホコリが空気中に舞い上がり、30分から1時間で床に落ちてきます。ダニやホコリが床に落ちたところで、掃除機をかけたり拭き掃除をします。床を最後に掃除するのがポイントです。

掃除のときは窓を2ヶ所以上開けて空気を入れ替えましょう。窓を開けられない場合は、掃除後に空気清浄機を1時間かけます。また、3日に1回以上の掃除でダニを減らすことができるというデータもあり、週に2回は掃除をするよう心がけましょう。

特にアレルゲンの温床になりやすい布団はこまめに掃除を。布団を干してよく乾燥させたら、時間をかけて両面に掃除機をかけます。その時、布団の中央部だけでなくダニが多いとされる周辺部も重点的にかけましょう。目安としては1平方メートルあたり20秒くらいかけます。ちなみに干した後の布団たたきは絶対にやめましょう。ダニの死骸が粉碎されかえてホコリの量が増えてしまいます。また、季節の変わり目に寝具を出したらすぐに使用しないで一度干してからしっかり掃除機をかけて使うようにしましょう。

子どもたちが暮らす未来の環境を守り、アレルギーを発症させないための生活環境づくりを徹底してあげること、それが子どもたちの将来の健康につながってゆくのです。

■すずきかよこ「妊娠・出産・子育て・女性の健康や家族の在り方」をテーマに環境問題など社会的な課題解決に向けた情報や提案の発信をしている。



babycom

令和7年度(2025年度)の取組に向けて

昨年度は、リサイクルめぐろ推進協会創立から通算して30年目という節目の年度でした。協会では、大人から子どもまで幅広い年代の方々が一堂に会して環境問題を考える創立30周年記念講演会を開催し、盛況のうちに終了しました。また、エコまつり・めぐろ2024や出前講座などの計画事業は、コロナ禍前と同様に多くの皆様にご参加をいただきながら円滑に実施することができました。

最近の環境問題を取り巻く情勢を見ますと、令和6年(2024年)10月に国連環境計画が公表した「排出ギャップ報告書2024」では、温室効果ガスの排出量を劇的に削減しなければ、世界は破滅的な3.1℃という気温上昇を避けられない可能性がある、と述べており、アントニオ・グテーレス国連事務総長は「私たちは地球規模の綱渡りをしながら、よろめいています。指導者たちが排出ギャップを埋めるのか、それとも気候災害にまっしぐらに突き進み、最も貧しい人々と最も脆弱な立場に置かれた人々が最も苦しみのか、そのどちらかです」と警告しています。一方で、第29回気候変動枠組条約機構(COP29)では、発展途上国に対して先進国が提供する「気候資金」の上積などの課題について、最後まで溝が埋まらないまま閉会しました。また、令和7年(2025年)1月にはアメリカ合衆国で新たな大統領が就任し、地球温暖化対策の国際的な枠組みである「パリ協定」からの離脱を含むエネルギー政策に関する5本の大統領令に署名をしました。政治や社会経済活動の動

きが世界的な気候変動対策に与える影響については、今後とも、注視していく必要があります。

協会としては改めて「環境と人間が調和した地域を実現し、持続可能な社会の形成に寄与する」という創立の目的に沿って、一人でも多くの区民の皆様が今まで以上に環境問題に関心を寄せ、身近なところから環境にやさしい生活の実現を、楽しく、気軽にできるよう事業を実施してまいります。

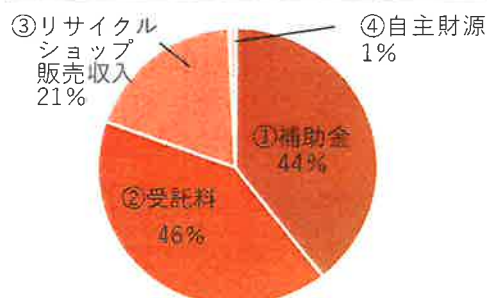
令和7年度(2025年度)は、今まで以上に積極的にホームページやSNS、広報紙など多様な媒体で、環境にやさしい行動を実践している方々の紹介や、日々実践できる環境配慮行動の提案など様々な情報を発信し、環境問題に対する関心を高めてまいります。また、区民等で構成される環境保全活動団体や、区を始めとする行政、事業者等との連携・協力を深めるとともに、今まで以上に地域に出向くことや、イベント等を通じて、多くの方々と触れ合いながら学び、体験し、考える機会を生み出してまいります。

エコライフめぐろ推進協会は、目黒区が目指す2050年のゼロカーボンシティの実現に向けた取組をはじめ、様々な事業を通じて、すべての世代の人々が安心して暮らせる、より豊かで持続可能な社会の実現を目指してまいります。

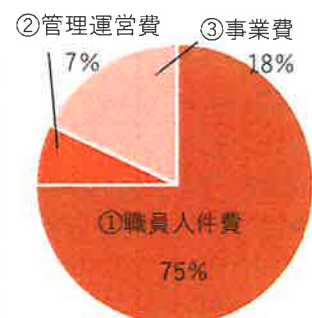
令和7年度収支予算の概要

理事会において、令和7年度事業計画及び予算が承認されました。

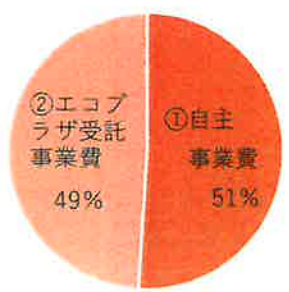
収入内訳(財源別)	(千円)
①補助金	42,815
②受託料	45,153
③リサイクルショップ販売収入	9,000
④自主財源	736
収入合計	97,704



支出内訳(費目別)	(千円)
①職員人件費	74,539
②管理運営費	7,109
③事業費	17,856
支出合計	99,504



支出内訳(事業別)	(千円)
①自主事業費(団体運営費)	50,829
②エコプラザ指定管理事業受託事業費	48,675
支出合計	99,504



令和7年度 エコライフめぐる推進協会の主な取組

協会自主事業計画

めぐるスマートライフ

誰もが・楽しく・簡単にできるエコな情報をホームページから発信しています。今年度はトップページを改修し、更に見やすく、親しみやすい構成にするとともに、環境配慮生活の提案など幅広い視点から情報を発信いたします。また、区民等からも情報提供を募るとともに、ecoライフライターにもご協力いただき身近で親しみやすい情報発信に努めます。

フードドライブ

フードドライブの窓口を、令和3年度から事務局に常設していますが、協会主催のエコまつりをはじめ、地域のイベントなどへも出向き実施する予定です。また、今年度は食品ロス削減に関わる環境講演会を開催します。引き続き、行政、関係団体等と連携しながら食品ロス削減に向けた啓発等を行ってまいります。

周年行事の実施

平成6年度に当協会の前身である「リサイクルめぐる推進協会」が発足し、昨年度は30年目として創立30周年記念講演会を実施しました。今年度は、30年間のあゆみなどを記録した記念誌を発行いたします。

環境保全活動団体との連携と支援

区民等の環境保全活動やネットワークづくりに対する支援は、協会の重要な役割です。今年度は、環境保全活動団体の活動が活性化するために、団体の活動を支援する仕組みとして有効に活用されるよう制度を充実し、団体相互の関係づくりの支援策としてオンラインの活用による活動報告会、交流会の開催などを検討してまいります。

エコまつり・めぐる2025の開催

エコまつりは、区民をはじめとする多くの方々が交流しながら環境について楽しく学べる機会として実施してまいりました。昨年度は、7つの新規団体を加え、延べ40団体が参加し、約2,700人が来場しました。今年度は、更に多様な団体の参加を募り、幅広い交流の場として昨年以上の盛況を目指して実施いたします。

持続可能な開発目標（SDGs）

SDGsは、私たちを取り巻く社会活動、日常生活全てに係わるもので、加盟国が取り組む持続可能な開発に関する17すべての目標が達成されなければなりません。協会の事業実施にあたっては、SDGsの目標を意識した運営を行ってまいります。

目黒区エコプラザ事業計画

エコプラザ講座・出前講座の開催

子育て世代や子どもたちなどを始め多様な年齢層を対象に講座を開催します。また、不要となった子ども服にエピソードタグをつけて必要な人と交換を行う「xChange（エクスチェンジ）～子ども服の交換会～」を開催します。その他、展示コーナーでは定期的にテーマを決めて環境に関する情報提供や図書の配架を行います。

出前講座では、小学校をはじめ、児童館などに積極的に出向き、環境問題を知り身近な活動について学ぶ場を提供します。

また、ホームページやSNSを活用した時間や場所にとらわれない講座づくりの取組や、環境活動団体、大学との連携など、コーディネーターとして環境活動の推進力を高めてまいります。

環境推進員養成講座の実施

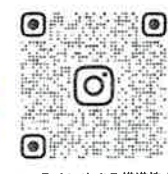
区民に環境保全活動の輪を広げていくことを見据え、地域で自主的・自発的に活動できる人材育成を目的に実施しています。講座実施にあたっては、講演、施設見学、討論など多様な仕組みで構成し、参加者が円滑に環境保全活動を実践できるよう取り組んでまいります。

リサイクルショップの運営

リサイクルショップは、リユース・リデュースを啓発し広めるため、家庭で不用になった品物をご寄付いただき販売しています。販売収入は、協会事業の財源として活用しています。区民、エコプラザ来訪者等に対して、事業目的の周知と啓発に努め、利用しやすいショップとなるよう取り組んでまいります。

SNSでエコな情報を配信中！

今年度も引き続き、インスタグラムでイベント情報やエコな情報を発信していきます。右のQRコードからフォローをお願いいたします。



エコライフめぐる推進協会
インスタグラム



目黒区エコプラザ
インスタグラム

女性南極シェフが見た食と地球の未来

令和7年度環境講演会は「環境と食」をテーマに開催いたします。講師の渡貫淳子さんは一児の母ながら、一念発起して南極観測隊にチャレンジ。観測隊では日本から出発時に持ち込んだ食品のみでおよそ1年間の隊の食事をまかいます。コンビニでヒット商品となった「悪魔のおにぎり」は、渡貫さんが南極で余り食材を活用して作ったものをベースにしています。極地で得た食品を使い切るコツや知恵、むき出しの自然環境と向き合った経験などをお話いただきます。ほか、環境省、東急ストアから講師を招き、食品ロス削減について考えます。詳細はHPをご覧ください。

6月28日(土)

13:30～16:00 (開場 13:00)

会場：中目黒GTプラザホール (中目黒GT地下1階)

定員：80人 (先着順)

※ 申込不要。直接会場へお越しください。

【登壇者】

渡貫淳子氏 (第57次南極地域観測隊 調理隊員)

村井辰太郎氏 (環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室)

片衛賢司氏 (東急ストア 経営戦略室 サステナブル推進部)



会員向けワークショップ

2月5日、会員の方にご参加いただき、ボランティア講習会「伝統の藍染め布を使った小箱づくり」体験を行いました。参加した皆さんは貴重な藍染め布を使い、世界にひとつだけの小箱を作り上げていました。



講師は「藍印花布わたなべ」の福原梨花さん

エコライフ交流会2025

3月11日、「エコライフ交流会2025」を開催しました。前半の活動団体の発表では、「環境三四郎」「こまばりボン倶楽部」「MGK10」「めぐろECOJOY倶楽部」の方々に環境保全活動について発表いただき、後半の自由交流では、グループごとに交流を深めました。



自由交流時間の様子

eco ライフライター研修会

3月18日のecoライター講習会では、「カラダを海に」をテーマに塩について学びました。塩の歴史や種類等「塩を知る」ところから、トマトや豆腐と組み合わせて試食をすることで「塩を感じる」ところまで、塩の大切さを五感で学ぶことができる講習会でした。



講師は「solco」代表の田中園子さん

協会会員コラム

環境から地域への貢献を考える

はじめまして。最近、エコライフめぐろ推進協会の会員になったばかりの、新入りの斉藤です。

目黒に生まれて(生まれは中野)、途中何回か、目黒を出たり入ったりもしましたが、この25年強は田道地区(田道ふれあい館は、歩いて1分)に住んでおりまして、目黒への思いはひときわ強く持っているつもりです。

なのですが、「子どもの頃はさておき、ここ最近、地域への貢献は全然できていなかったな...」と、今更ながら反省。このため、最近では地域のボランティア活動や行事になるべく出るように心掛けています。その中の一つに、昨年11月に田道広場公園(と、田道ふれあい館)で開催された「エコまつり・めぐろ2024」でお手伝いをさせていただく機会があり、これをきっかけに協会の活動に興味を持ち始めた、というわけです。お手伝いした“自然エネルギーソーラーカー”は、子どもたちの熱い視線を集め、乗車体験は正にワクワクものであったと思います(実は私も乗車して、ドキドキでした)。

現在、メーカーで電機システムの研究開発をしており、地球温暖化対策・脱炭素にぜひ貢献したいと考えています。一方、私生活では、分別・リサイクルを心掛けておりまして、例えば「裏が

協会会員 斉藤 健さん

白い紙は、メモなどにしっかり使ってから分別回収!」と、頑張っているつもりなのですが、最近になって「コンビニ等のレシート(感熱紙)は、リサイクルに出してはいけない」ということを知るなど、まだまだ修行中の状況です。

3月に開催された、エコライフ交流会にも初めて参加させていただきました。様々な団体のユニークなご発表や、地域に根差した活動に感銘を受けました(目黒の自然豊かな所では、狸やヘビなどにも会える、とはビックリです)。ご講演や、車座になったのトークで「シンク・グローバル/アクト・ローカル(地球規模で考えて、地域で行動しよう)」とのお話を聞きました。まさにその通りと思う一方、「目黒は、地域も地球規模も、両方で行動したいですね」とも思いました。

これからも色々貢献できればと思います。よろしくお願いいたします。



エコまつりでボランティアとして活躍した斉藤さん